



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.3.29 No.3190

明日 本社前へ結集を



三里塚現地集会
圧倒的にかちとる

運輸(地上勤) 営業、日勤者の ストライキ打ちぬこう

清算事業団闘争勝利総行動

十三時以降 ストライキ
十六時) 本社前街宣行動
十八時) 清算事業団闘争勝利
中央集会(日比谷)

一切の責任は
当局にある

JR東当局は、動労千葉の戦術拡大にいたく打撃をうけ、「違法スト」などと悲鳴をあげ、不当処分を画策している。スト当日の「住田社長談話」、二三日の「お詫び広告」、原田総務部長のインタビュー記事など一切が、あたかも動労千葉が突然ストライキを開始したかのごとくえがきあげ、全ての責任が組合にあるかのように宣伝している。

だが何度ものべているように、当局の不当なスト介入に対しては戦術拡大があることを前もってあきらかにし、一八スト当日についても当局の不当な対応にたいして何度も戦術拡大にふみきると申し入れている。これは事実のことだ。後になつて、当局が「知らなかつた」などと言うのは、責任のがれのための大ウソなのだ。

当局とJR総連革マル松崎は、三・一九(二)ストに対して、国労・動労千葉がストに入ろうが列車が止まらないというスト破り体制に出て来た。さらに動労千葉組合員の構内入構阻止、組合事務所封鎖、泊り勤務者の宿泊施設使用の拒否、各スト拠点への多数のビデオカメラなどの持ち込みといった、違法なスト圧殺に乗り出して来た。労働組合の正当なストライキをストの前日から妨害する、ここに今のJRの本質がよくあらわれている。しかも原田総務部長はこうした弾圧を指示する責任者でありながら、十八日午前中不在で、その理由が「買い物に出ている」

不当処分策動
を實力で
粉碎しよう

このことはなによりも当局とJR総連との癒着が強まるなか、当局自らがこのスト破り体制に頼りきり、力でおせばストをつぶせるなどと、労働者の底力をあなどって来たからにはならない。

ところが実際にストライキがたたきつけられ、列車が止まるなかで、スト破り体制の崩壊に恐怖した住田らが、逆に「違法だ」「不当だ」などとデッチあげ、動労千葉に何とかキズをつけようとやっきとなっているのだ。

われわれのストは一〇〇%正当なストだ。むしろ不当なのは当局でありJR総連革マルの方だ。団結をうちかため、不当処分策動を實力で粉碎しよう。

明日三〇日、日勤者のストライキ、本社前街頭宣伝、清算事業団闘争勝利中央集会を総力で闘おう。

4・8

清算事業団労働者の全員解雇攻撃粉碎！
ストライキへの不当処分策動粉碎！
動労千葉総決起集会・JR抗議闘争